

大学の世界展開力強化事業(平成27年度採択) 東京藝術大学 取組概要

【事業の名称】(選定年度27年度・主たる交流先(トルコ))

Global Arts Crossing ～ 中東地域との戦略的芸術文化外交 ～

【事業の概要】

グローバル化の急速な進展に伴う新たなフロンティア開拓等諸課題に即応するためには、国際舞台で活躍できる芸術家育成をはじめ、世界各国の“芸術文化リソース”を活かした国際的な芸術活動等国境を超えた展開が必要不可欠である。

そのため、我が国同様、芸術文化・観光振興を政策に掲げ、東洋と西洋の芸術文化が交錯・融合する「中東地域」をターゲットに、多数の歴史的文化財や建築、工芸等、世界的に稀少価値が高く魅力的な芸術文化リソースを有するトルコ共和国のミマル・シナン美術大学及びアナドル大学、イスラエルのベツアルエル美術デザインアカデミーの中東3大学と国際連携ネットワーク基盤を確立して、学生の相互交流拡充や国際共同プロジェクト実践等を加速度的に実行し、グローバルに展開できる芸術家育成を戦略的に推進することにより、人材育成等の国際交流を通じた「芸術文化外交」を実現する。



【交流プログラムの概要】

「多様性」を基軸とした「Diversity Crossing Program」として、各国の特色ある芸術文化リソース等を最大限活用し、教員・学生の多国籍ユニットによる国際共同プロジェクトを基盤とする実践型プログラムを展開する。具体的には、9つの専攻分野を対象に、①Short Crossing: 1か月未満、②Middle Crossing: 1か月～3か月、③Long Crossing: 3か月以上 の3つの期間設定により構成され、ジョイントディグリーや履修証明、公開型審査等による質保証システムをはじめ、学生派遣・留学生受入に係る支援や安全・危機管理の強化、アーティスト・イン・レジデンス機能の活用等総合的なサポートシステムを構築する。

【本事業で養成する人材像】

自国の芸術文化の承継・発展への貢献意欲を有するとともに、他国の芸術文化に対して深い造詣や尊敬の念を有し、世界各国における芸術文化の多様な価値や魅力を十分に理解した上で新たな創造に繋げることのできる先導的な人材、国際舞台においてオリジナリティやアイデンティティ、豊かな表現力や創造力を発揮して活躍できる傑出した芸術家を養成する。

【本事業の特徴】

芸術分野固有の特性を踏まえた6つの「多様性(Diversity)」を基軸としたグローバル展開プログラム(Diversity Crossing Program)であることが大きな特徴であり、具体的には、①専攻分野、②プログラム実施期間、③学生・国籍、④ロケーション、⑤芸術文化リソース、⑥ステークホルダー の6つの要素によりプログラムを構成し、将来的にはアジア・欧米を含めたグローバルワイドなジョイントプログラムとして発展させ、普遍的な「芸術文化外交」の実現を目指す。

【交流予定人数】

	H27	H28	H29	H30	H31
学生の派遣	11 (トルコ⑦・イスラエル④)	17 (トルコ⑩・イスラエル⑦)	25 (トルコ⑬・イスラエル⑨)	28 (トルコ⑯・イスラエル⑩)	30 (トルコ⑲・イスラエル⑪)
学生の受入	10 (トルコ⑥・イスラエル④)	14 (トルコ⑧・イスラエル⑥)	22 (トルコ⑭・イスラエル⑧)	23 (トルコ⑱・イスラエル⑧)	25 (トルコ⑲・イスラエル⑨)

1. 取組内容の進捗状況(平成27年度)

【Global Arts Crossing ～ 中東地域との戦略的芸術文化外交 ～】(選定年度27年度・主たる交流先(トルコ))

■ 交流プログラムの実施状況

平成27年度は、トルコ国内での度重なるテロ発生をはじめ中東地域の治安が著しく悪化した為、日本人学生の派遣プログラムを計画通りに実施することが困難だったが、一方で、連携大学の外国人留学生については、交換留学1名、ショートプログラム12名と、**計画人数を上回る合計13名の学生を受け入れ、連携大学の教員招聘等と併せ多様な交流活動を実施した。**

	H27	
	計画	実績
学生の派遣	11	2
学生の受入	10	13

東京藝術大学 × アナドール大学

工芸分野の学生3名を受け入れ、併せて招聘した先方の教授による「**ラスター彩(イスラム圏の陶器)**」に関する特別講義を開催。ラスター彩の歴史や表現、特殊な焼成技法などが教授自身の作品を交えながら説明され、参加学生らは中東の珍しい技法に大変興味を持ち、多くの質問が出された。また、**陶芸家・三上亮氏の工房を訪問し、ワークショップを実施**。参加学生らは、陶芸素材およびロクロに関する技術について意見交換を行うことで、日本陶芸の見識を深めた。



〈アナドール大学からの招聘教員による「ラスター彩」についての特別講義〉



〈陶芸家・三上亮氏の工房でのワークショップ〉

東京藝術大学 × ミマール・シナン美術大学

彫刻分野の学生2名と建築分野の学生2名を受け入れ、期間中、横浜美術館の荒木悠展・複製神殿、村上隆スーパーフラットコレクション展を訪れた。**荒木悠氏からは展示について説明を受け、質疑応答など直接交流する機会が設けられた。**また、**横浜美術館の学芸員から、美術館の活動等についてレクチャー**を受け、トルコの芸術系機関との比較や文化的な活動に関する新たなアイデアを模索する意見交換が行われた。



〈横浜美術館での芸術文化体験〉



〈建築科アトリエでのレクチャー〉

東京藝術大学 × ベツアルエル美術デザインアカデミー

ファインアート分野の学生3名とデザイン分野の学生2名を受け入れ、**両校の学生5人ずつが英語による公開型トークセッションを開催**し、各自の作品・活動、それぞれの大学の相違などを語り合った。また、本学と東京都美術館が共同で実施している、アートを通じてコミュニティを育む事業「**とびらプロジェクト**」を訪れ、**イスラエルで同様に実施されている芸術に関する社会活動との比較等、活発な意見交換が行われた。**



〈両校学生による公開型トークセッション〉



〈「とびらプロジェクト」への参画〉

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

本学の教職員が**ベツアルエル美術デザインアカデミーに往訪**したほか、**連携3大学の教員を本学に招聘**し、交流プログラムについて詳細な打ち合わせを実施。産学連携については、陶芸工房や美術館のほか、**香川県**の文化振興課および**県立美術館長とインターンシップ等について協議**を行った。



〈ベツアルエル美術デザインアカデミーにおける交流プログラムについての協議〉



〈ミマール・シナン美術大学の教員を招聘し、学生交流計画の詳細を協議〉



〈アナドール大学の教員・学生と東京藝術大学の陶芸研究室〉

■ **外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備**
コーディネーター、プロジェクト専門スタッフ、サポートスタッフを新規雇用・配置。学生支援に係るネットワークの整備として、教職員がイスラエルに往訪した際に**派遣中の学生と面談し、現地の様子について聞き取り**を行った。また、帰国留学生との連絡調整を実施したほか、**在イスラエル日本大使館スタッフとも面会**し、交流プログラムの支援について協議を実施。



〈ベツアルエル美術デザインアカデミーのキャンパス〉

■ 事業の実施に伴う大学の国際化の状況、情報の公開、成果の普及

大学Webサイトにおいて本事業の概要、計画、将来ビジョンおよび個別の**活動レポートを日本語・英語の双方で公開**。連携大学の教員・学生による本学の卒業・修了制作作品展示会の鑑賞を実施。



〈本学の卒業・修了制作作品展で制作者の学生と交流する連携大学の教員・学生〉

2. 取組内容の進捗状況(平成28年度)

【Global Arts Crossing ～ 中東地域との戦略的芸術文化外交 ～】(選定年度27年度・主たる交流先(トルコ))

■ 交流プログラムの実施状況

平成28年度は、中東地域の治安情勢に改善の兆しが見られなかったため、昨年度に引き続き日本人学生の派遣プログラムを計画通りに実施することができなかった。一方で、連携大学学生の受入については、長期プログラム(交換留学)3名・短期プログラム15名と、**計画人数を上回る合計18名の学生を受け入れ、連携大学の教員招聘等と併せ多様な交流活動を実施した。**

	H28	
	計画	実績
学生の派遣	17	1
学生の受入	14	18

東京藝術大学 × アナドル大学

本学・陶芸研究室の「登り窯実習」に、アナドル大学で陶芸を専攻する学生が参加した。窯入れ前の自作を各自トルコから持参し、本学・取手校地の宿舎にて日本人学生と寝食を共にし、連夜にわたって火の番を行い、本学学生と一緒に登り窯で作品を完成させた。また、学外活動として豊福誠教授の個展会場を訪問し、日本の陶芸作品の需要や市場について学習する機会としたほか、日本とトルコの若い世代の陶芸家が交流する場にもなった。



東京藝術大学 × ミマール・シナン美術大学

本学が開催している古美術研究旅行にミマール・シナン美術大学の学生が参加し、通常の寺院への訪問とは異なる、専門分野の教員による指導のもとでの特別な拝観を行った。また、KYOTO ART HOSTEL Kumagusukuを訪問し、現代美術を身近に感じられる試を行っている宿泊施設を体験した。奈良・京都の日程後は、本学の上野キャンパスにて博士審査展を見学した。日本の古都での伝統的な芸術文化と、東京での同世代による現代的な作品の両方を体験する内容となった。



東京藝術大学 × ベツアルエル美術デザインアカデミー

コリング・デザイン大学と本学との共同ワークショップに、ベツアルエル美術デザインアカデミーの学生と教員が参加し、日本の「こども食堂」をテーマに、日本人学生と外国人学生との合同グループによるリサーチや提案、発表を行った。ある課題をチームで解決していく方法論として、コリング・デザイン大学で使われている“DKメソッド”を実践した。この他日本画・扇状画実習では、日本画特有の画材や構図の考え方などを学びながら、植物をモチーフに扇型の紙面に絵を描いた。



■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

アナドル大学とはエラスムス+協定を締結し、学生交流の機会および支援を拡充した。また、外国人留学生の受入時に、デザイン・エンジニアリング会社、絵筆や絵の具の製造会社、上野の杜の美術館等における体験活動や教育プログラムを実施した。加えて、前年度の取組について「自己評価書」を取りまとめ、外部委員により構成されるグローバル戦略評価・検証委員会を開催し「外部評価書」を作成した。



■ 外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

本学教職員の派遣によるミーティングや定期的な連絡調整により連携大学との協議を進め、本事業における共同教育プログラムや学生の相互派遣・受入について綿密な打ち合わせを行い、本学における各種工房等での実践環境・指導体制の整備に繋がった。また、次年度以降の学生派遣に向けて、本学の教職員がトルコ・イスラエルの現地環境を調査し、大使館等とも情報交換を実施した。



■ 事業の実施に伴う大学の国際化の状況、情報の公開、成果の普及

S G U 事業で開催した「Global Homecoming2016 (元留学生招聘事業)」に、本事業の連携大学の学生に特別枠として参画してもらい、中東諸国以外も含めたネットワークの強化・拡大を図りつつ、本事業に係る様々な取組の発信・成果の普及に繋がった。



3. 取組内容の進捗状況(平成29年度)

【Global Arts Crossing ～ 中東地域との戦略的芸術文化外交 ～】(選定年度27年度・主たる交流先(トルコ))

■ 交流プログラムの実施状況

中東地域での治安悪化を受け、数名の交換留学を除き控えていた派遣事業を一部再開し、連携大学への9名の派遣を実施した。受入学生数は前年度と同数の18名であったが、3ヶ月以上の長期交換留學生数が増加し、本学が厳格なポリシーに基づき提供している質の高い授業を、より多くの海外学生に提供することができた。

	H29	
	計画	実績
学生の派遣	25	9
学生の受入	22	18


 東京藝術大学 × アナドル大学

【派遣】教員とともに2名の学生を派遣し「使い捨て箸のデザインと演出」に関するワークショップを開催した。また、工芸科の学生2名が長期間トルコに滞在し、現地で授業に参加した。

【受入】1名の学生が本学先端芸術表現科で授業を受け、滞在中には本学教員を取り上げた展覧会等にも参加した。陶芸専攻の学生2名が来日し、穴窯実習に参加した。本学取手校地で実施された紙すき拓本のレクチャーに絵画専攻の学生2名が参加した。



(アナドル大学でのワークショップの様子)


 東京藝術大学 × ミマール・シナン美術大学

【受入】2名の学生が来日し、オーストラリア・ボンド大学との日本の都市空間をテーマとしたワークショップに参加した。また彫刻科より2名の学生を受け入れ、本学学生と「彫刻と場について」をテーマとした合同ワークショップを実施した。



(日本とトルコ、両国の学生による共同作業)


 東京藝術大学 × ベツアルエル美術デザインアカデミー

【派遣】デザイン専攻の学生3名が渡航し、施設や工房を視察した。その際インダストリアルデザイン科から「デジタル機器を使わないものづくり」を学ぶことを目的としたワークショップ「Dead sea 2days craft seminar」の紹介を受けた。また、学生2名がイスラエル大使館主催の視察事業に参加し、テルアビブ・エルサレム両市の文化施設を視察するとともに、ベツアルエル美術デザインアカデミーを訪問した。

【受入】学生4名の長期受入を実施し、日本人学生と交流を深めつつ授業を受けた。夏には学生2名が、本学の学生とともに奈良を中心に日本の文化財を巡る古美術研究旅行に参加した。北欧の社会的デザイン(Societal Design)をテーマにしたフィンランドとの合同ワークショップに、3名の学生が参加した。



(ベツアルエル美術デザインアカデミーのキャンパス)

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

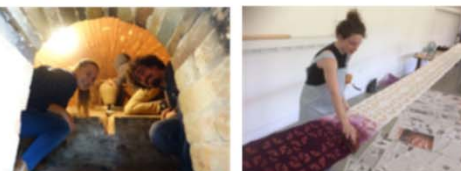
本学の教員がベツアルエル美術デザインアカデミー(イスラエル)およびアナドル大学(トルコ)を往訪し、各大学で提供される教育プログラム、単位認定方法、学生に対する支援内容、治安等危機管理に関する協議を行った。

■ 外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

外国人学生および海外渡航を希望する学生への支援を更に強化すべく、本学職員が実際に海外に滞在し、語学力とともに異文化理解度を高める「海外短期語学研修」や、留学生を教師とした実践型の「外国人留学生と職員の交流授業」を開始した。

■ 事業の実施に伴う大学の国際化の状況、情報の公開、成果の普及

本学における研究・教育の実績を世界に向けて発信するためのwebサイト「GEIDAI × GLOBAL」の内容、レイアウトを一新し、日英両言語での情報公開体制を強化した。また、本学が主導し国内56大学が加盟している「芸術系大学コンソーシアム」における情報共有を活性化する等、国内での成果普及も推進している。(GEIDAI × GLOBAL: <http://global.geidai.ac.jp/>)



(寝食を共にした穴窯焼成)

(日本の染織技法を学ぶ)

■ 特記すべき事項等

本学は、様々な産業界との共同プロジェクトや国際ワークショップ等多様な目的で利用可能な工房群「GEIDAI FACTORY LAB」を取手校地に開設し、本事業での積極的な活用を推進している。アナドル大学(トルコ)から学生を受け入れた際には、同LAB内の紙漉き染色工房の設備を活用し、トルコでは馴染みの無い和紙の制作方法について、実体験を通じた学びの機会を提供した。